

The TENDAI journal

令和7(2025)年2月1日 土曜日
(毎月1日発行) 1部80円(消費税込・送料別)

天台ジャーナル

発行所：天台宗出版室
発行人：出版室長 坂本 圭司
〒520-0113大津市坂本4-6-2
天台宗務庁内 電話：077-579-0022(代)
Eメール：t-press@tendai.or.jp



広報天台

第259世 天台座主に藤光賢猊下 2月1日にご上任



ご上任された藤光賢猊下



ご譲職された大樹孝啓猊下

大樹座主猊下のご譲職

天台宗は1月10日、第258世天台座主探題大僧正大樹孝啓猊下(100)がご高齢などを理由にご譲職(辞任)されることを発表しました。これにより、宗憲及び宗制並びに天台座主規程に基づき次座探題の藤光賢大僧正(93)が2月1日付けで第259世天台座主にご上任されることが決まりました。同日、滋賀院門跡で上任式が行われ、大樹座主猊下は前天台座主として遇されることになった。

大樹座主猊下は、昨夏より

より体調不良を覚えられてご静養される日も多く、ご高齢などを理由に昨年末に天台宗と延暦寺の両役員にご譲職の意思を伝えられていた。

これにより、天台宗宗憲第十二条及び天台宗宗制第四条、天台座主規程第四条の規定から、次座探題の藤光賢大僧正が第259世天台座主にご上任されることとなった。

ご譲職は平成19年の渡邊恵進第255世座主猊下以来となる。

大樹天台座主猊下は、森川宏映天台座主猊下のご遷化を受け、令和3年11月22日に最高齢となる97歳でのご上任され、3年2カ月にわたり天台宗の師表として宗徒をご教導された。

令和4年8月の比叡山宗教サミット35周年記念「世界宗教者平和の祈りの集い」では、激しい雷雨の中、怯まずに力強いお声で「神仏からの激励を賜った」と挨拶を止めず参加者を鼓舞するお姿は、会場の気持ちを一つにした。後に「記憶に残る比叡山宗教サミットになった」と参加者から讃えられ、今も語り継がれている。

また平成23年から11年にわたる

先垂範された。令和5年3月31日に奉修の総結願奉告法要では大導師を務められた。

第259世天台座主猊下にご上任になった藤光賢座主猊下は、昭和7年1月生まれ、長崎県出身。天台宗宗議会議長、宗務総長、宗機顧問などを歴任され、京都五箇室門跡のひとつ曼殊院門跡門主と九州西教区金乗院の住職を勤められた。

昭和生まれ初の座主猊下となられる。

伝燈相承式は 6月10日

藤座主猊下は、滋賀院門跡での上任式後、伝教大師祖廟である浄土院へ上任のご報告をされた。

また現在は未定だが、比叡山全山を巡拝し諸仏諸菩薩諸天善神に座主上任をご報告される御拝堂式に臨まれる。

伝燈相承式は6月10日午前10時半より、比叡山延暦寺総本堂根本中堂において古式に則り執り行われる予定。歴代天台座主の相承譜に、第259世座主上任の署名をされる。

極微

日本国内で見られるスズメの数が、ここところ減少しているという報道があった。そういえば、家の近くでも公園や野原でもあまり見かけない気がする。昔は群れ集って飛ぶ姿をよく見かけたものだが、最近はそんな光景にトンと出会わない。スズメというと、古来より人間の暮らしのそばにいて親しみ深い鳥である。昔話の「舌切りすずめ」をはじめ、民話や童謡にも取り上げられる我々日本人にとって身近な存在だ。日本ではなく中国のことだが、かつてスズメにとって受難の時期があった。1950年代の毛沢東の大躍進政策により、穀物生産に害を与える生き物として膨大な数のスズメが駆除された。しかし、結果は裏目に出た。穀物増産どころか、稲がイナゴなど害虫に食われ大凶作になってしまったのだ。スズメは穀物を食べるだけでなく、穀物の害虫を捕食するという益鳥の面が忘れられていた結果であった。自然界はバランスの取れた生態系を維持してきた。しかし人間の都合により調和を無視したこと、このような事態を招いた一因であろう。このたびの国内におけるスズメの減少が、生態系にどのような影響するのか。他の生き物でも絶滅危惧種がどんどん増えている。日本のみならず、地球の生態系のバランスがどう変わっていくのか、今後、注視していくべきであろう。